

一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会
2024（令和6）年度定時社員総会 議事録

1. 開催日時：2024（令和6）年8月24日（土） 11時40分～12時35分
2. 場 所：日本福祉大学・東海キャンパス 3階 S302 講義室（第38回リハ工学カンファレンスin東海第2室）
（愛知県東海市大田町下浜田 1071 番地）
3. 社員総数 65名（議決権は、各1個）
出席社員数 50名（出席12名、議決権行使書提出者数30（議長以外の役員13名は議決権行使書提出）、
委任状提出者数8（議長への委任8））
※オブザーバー（協会正会員および学生会員）出席者数4名

出席理事（社員） 河合俊宏（会長（代表理事））、桂律也（副会長）、江原喜人（副会長）、
金井謙介（副会長）、植田瑞昌、北野義明、小林博光、中村詩子、早川康之、
村田知之、渡辺崇史
出席監事（社員） 伊藤和幸、水澤二郎
出席事務局参与（社員） 沖川悦三
出席理事 伊佐拓哲、小島みさお、鈴木太、森田千晶
書記 深野栄子（協会事務局）

議事録署名人
中村俊哉（兵庫県立福祉のまちづくり研究所）
剣持 悟（川村義肢株式会社）

4. 審議事項
第1号議案 2023年度事業報告（案）
第2号議案 2023年度決算報告（案）／監査報告
第3号議案 2024年度事業計画（案）
第4号議案 2024年度収支予算計画（案）

5. 社員総会資料
資料1 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2023年度事業報告（案）
資料2 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2023年度決算報告（案）
資料3 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2023年度監査報告
資料4 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2024年度事業計画（案）
資料5 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2024年度収支予算計画（案）

6. 議事の経過の概要及び議決の結果

総会・理事会担当の北野理事より、本日の社員総会は定款第28条、29条により定数を満たしたので、有効に成立した旨（社員総会規則第2条第1項により、社員総会を招集した2024年8月1日時点での、社員数は65名。総会会場の参加者12名、議決権行使書による参加者30名、有効な委任状による参加者8名、合計50名を告げたのち、河合会長が定款第27条の規定に基づき議長に就任し（定款第28条第4項 議長は、社員として表決に加わることはできない。）、開会の辞を述べた。

定款第31条第2項「議長及び出席した社員の中から選任された2名の議事録署名人は、前項の議事録に署名又は記名押印する。」より、出席の代議員より議事録署名人2名を選出した。

審議は密接に関係する内容の第3号議案と第4号議案は一括説明とし、議案ごとに個別に決議することとした。

定款28条第1項

「社員総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、社員総数の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した社員の議決権の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の裁決するところによる。」

同条第2項

「前項の規定にかかわらず、次の決議は、社員総数の半数以上であって、社員総数の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。」

定款第29条第1項

「社員総会に出席できない社員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法により表決し、又は他の社員を代理人として表決を委任することができる。」

同条第2項

「前項の場合における前2条の規定の適用については、その社員は出席したものとみなす。」

議案に入る前に資料の訂正を行った。

【誤字・脱字等、資料の修正について】

代議員の皆様へ郵送した総会資料ならびにホームページ上に掲載した総会資料について、以下のとおり誤記がありましたので、訂正させていただきます。

◆3 ページ 31 行目

(1)福祉機器コンテスト 5)展示、広報

・バリアフリー2024(展示・広報)

(誤)開催日：2024 年 4 月 16 日(水)～18 日(金)

(正)開催日：2024 年 4 月 17 日(水)～19 日(金)

◆3 ページ 34 行目

(2)福祉機器コンテスト 2024

1) 福祉機器コンテスト 2024 事務局の設置

(誤)2024 年 3 月 1 日(火)

(正)2024 年 3 月 1 日(金)

◆4 ページ 13 行目

9)展示・広報 ・バリアフリー2024(展示・広報)

(誤)開催日：2024 年 4 月 16 日(水)～18 日(金)

(正)開催日：2024 年 4 月 17 日(水)～19 日(金)

◆5 ページ 6 行目

(誤)カンファレンスプレイベントなどの

(正)カンファレンスプレイベントなどの

◆6 ページ 27 行目

3)バリアフリー2024 へ出展

(誤)開催日：2024 年 4 月 16 日(水)～18 日(金)

(正)開催日：2024 年 4 月 17 日(水)～19 日(金)

◆7 ページ 1 行目

(誤)開催日：2024 年 4 月 20 日(木)

(正)開催日：2024 年 4 月 18 日(木)

◆7 ページ 37 行目

(誤)・8 月 24 日(金)、25 日(土)に

(正)・8 月 24 日(木)、25 日(金)に

◆9 ページ 13 行目

(誤)インターネット上のストレージを利用しで 「で」

(正)インターネット上のストレージを利用して 「て」

以上となります。

皆様に正確な情報をお伝え出来なかったことをお詫び申し上げるとともに、今後、複数の役員で、これまで以上に徹底して確認していく所存ですので、どうかご理解のほど、よろしくお願いいたします。

第1号議案 2023年度事業報告に関する事項

議長より社員総会資料1に基づき、その説明がなされた。

議長は、その可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

■承認 49票（出席代議員11名、議決権行使書30票※議長除く、議長への委任状8票）、非承認0、棄権0

◆質問・意見等（敬称略）

【事前に提出していただいた、本件に関わるご意見・ご質問に対する回答】

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料1】1ページ25行目～

災害対策委員会と（一社）日本災害リハビリテーション支援協会 JRAT との連動の意味について「大きい」と書かれていますが、具体的に説明をお願いします。

あわせて7ページの2.9 災害対策関連(1)災害対策委員会活動に「（一社）日本災害リハビリテーション支援協会 JRAT、地域 JRAT との連携方法について検討」と記載があります。連動の意味は大きいかもしれませんが、この連携方法について検討とあるのは、きちんと連携できておらず模索中という意味でしょうか。回答をお願いします。

JRAT の関係団体として、日本リハビリテーション工学協会は名を連ねていますが、年会費(4万2千円だったか?)を払って連動する意味があるのか、回答をお願いします。

念のために JRAT への現在の年会費の額もお教えてください。

■回答： ご質問いただきありがとうございます。

JRAT との連動については、記載の通り、加盟団体である（一社）日本義肢装具学会、（公社）日本義肢装具士協会との、情報共有を継続的に確認し、発災時の適切な機器支援に対応しています。令和6年能登半島地震でも、福祉用具関連の協力については、協働して対応しました。

当協会は、国家資格を基準とした職能団体ではありません。

現在の当協会では、独自に、連日 JRAT に従事できる方は、居ないと思われますので、特に（公社）日本義肢装具士協会さんとの連携は、必要であると考えています。

地域 JRAT との連携方法については、まだ具体的な案はまとまっていませんが優先して取り組む課題の一つであるとは考えています。問題点として、都道府県単位である地域 JRAT に対して、支部の区分や問い合わせ先、参加可能な会員数などが挙げられます。本件に関しては、災害対策委員会会議に地域支部担当理事にも参加いただいており、継続して解決方法について検討を進めます。

令和4年7月の厚労省「大規模災害時の保健医療 福祉 活動に係る体制の整備について」により、都道府県への地域 JRAT の連絡窓口の設置が通達され、都道府県との連携が強化されることになりました。災害時の障害当事者やその家族へのリハ支援における JRAT の役割は、これから大きくなります。今回の令和6年能登半島地震でも、様々な団体が活動する中、リハ支援の窓口は JRAT に一本化されています。したがって、リハ機器を含む福祉用具を必要とする方が被災された場合に、工学的支援を行える団体として、当協会の JRAT での役割も大きくなるものと考えています。しかし一方で、工学的支援は機器利用者への個別対応が多く、生活環境整備、生活不活発病やそれによる深部静脈血栓症（DVT）への対応など主に集団を対象とする JRAT 活動の中での立ち位置についての課題もあります。地域 JRAT への関わり方については前述の通りです。

正会員年会費額は、前年度と同じで42,000円となっています。被災地でのリハ活動支援への参加に加え、平時の啓蒙への参加など、リハ機器を必要とする方への支援を考えると、JRAT への加盟のメリットは大きいと考えます。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料1】1ページ37行目～

所属のなごや福祉用具プラザとしてではなく、カンファレンス実行委員会委員として関わり疑問がありましたので、質問します。

インボイスの解釈について、今回第 38 回リハ工学カンファレンス in 東海では例えば出展企業への出展料領収書などインボイス対応ではありませんでした。日本リハビリテーション工学協会としてどのような場合にインボイス対応で、またインボイス非対応な場合とはどういう時か、個別に考えていると思われますが、目安や考え方について教えてください。

■回答： ご質問いただきありがとうございます。

実行委員、ありがとうございます。

財務関連については、顧問の公認会計士の先生とも詰めてきてはおりますが、進めてきた企画毎のインボイスが対応出来ない案件が出ています。

カンファレンス実行委員会も、その一つということになってしまい、申し訳ありません。

今年度に関しては、問題が生じましたが、来年度からは明確に対応してゆきます。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料 1】 2 ページ目 7 行目～

1 社員・会員 1.1 法人社員・会員

2023 年 7 月 1 日現在と 2024 年 6 月 30 日現在での正会員数が減少しています。正会員を獲得しないと再び会費値上げにつながると思います。対策についてお聞きしたいので回答をお願いします。

■回答： ご質問いただきありがとうございます。

ご指摘の通りで、新規の会員獲得には、苦勞をしています。定年退職に伴う退会が多いのが、現実です。

理事だけでは、当然限界もありますので、対面のイベントを中心に、活動をしてきました。

今回のカンファレンスでは、多くの方が入会されています。Web 会議システムの良さは感じながらも、対面イベントをすることで、リハビリテーション工学の魅力を感じていただき、会員増を図りたいと考えています。

既に協賛会員の減少もありました。より適正に協賛会員への働き掛けもしてゆきます。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料 1】 2 ページ目 37 行目

2.2 福祉機器コンテスト関連(1)福祉機器コンテスト 2023、2)一次選考会の開催

応募数は会員より非会員のほうが多くなっていますが、コンテスト中やその後、応募者に対して協会会員への勧誘をされていますでしょうか。回答をお願いします。また勧誘していなければ、意見としてぜひとも勧誘すべきだと思います。

■回答： ご質問いただきありがとうございます。

コンテストは長い歴史があります。

コンテストの応募者全員に対しては、協会会員への勧誘はおこなっておりません。しかし、一次選考通過者および受賞者に対しては、二次選考会や表彰式、展示会の場で直接協会会員への勧誘やカンファレンス参加等お声がけさせていただいております。

福祉機器コンテスト 2024 では、いただいた意見を参考に応募全員に対して協会会員登録の案内を検討いたします。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料 1】 4 ページ目 17 行目

(3)コンテスト発展のための取組み 2)運営方法の見直し、とは具体的にどういうことか回答をお願いします。

■回答： ご質問いただきありがとうございます。

2)運営方法の見直しは大きく 3 つあります。

1 つ目は、二次選考会の対面開催への対応です。福祉機器コンテスト 2023 では、第 37 回リハ工学カンファレンス in 東京の開催に合わせ、一次選考会通過作品の展示と二次選考会の対面開催をおこないました。一次選考会通過作品の展示や二次選考会の対面開催は、福祉機器コンテスト 2019 以来であるため、感染予防等も含め運営方法を検討し、対応いたしました。

2 つ目は、テクノエイド協会が主催するニーズ・シーズマッチング交流会（大阪会場・東京会場）への出展です。この交流会への出展は、福祉機器コンテスト 2023 事業の途中で決まりました。そのため、交流会の運営について、コンテスト事務局と調整を行い、対応いたしました。

3つ目は、福祉機器コンテスト 2023 報告書(PW 付)の HP 掲載です。協会会員のみなさまには、協会誌 Vol. 39 No. 2 で PW も含めご案内しております。

◆質問 (敬称略)

田中芳則：【資料 1】4 ページ目 38 行目～

(4)協会誌の段階的電子化「紙媒体での発行について・・・」

協会誌発行回数の見直しとは、具体的に減らした場合の見積もりや電子化の見積もりなど実際に見積書を作成依頼して検討中ということでしょうか。

ある学会では会誌発行回数は減らさず、ページ数を大幅に減らして、記事や論文掲載を Web での閲覧で電子化されています。日本リハビリテーション工学協会も同様なことを検討しているのでしょうか。回答をお願いします。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

実際に見積もりを取って検討しております。

見積もりの内容は現時点ではまだ公開できませんが、年 4 回すべて電子化した場合、紙媒体を残した場合、希望者のみ紙媒体を発行する場合など、さまざまな視点から検討をしています。

電子化に関しては、本協会においてもかねてより、「報告記事」は協会 HP に掲載しておりますし、「投稿論文」は即時 J-STAGE に掲載されています。(詳しくは Vol. 35 No. 3 のお知らせをご覧ください。2020 年 7 月～開始済み)。さらに、過去の記事に関しても、毎号新刊が発刊されるたびに 1 号分さかのぼって同時に掲載しております。現在 Vol. 28 No. 2 まで掲載されています。なお、電子化に関する投稿規定となる以前の号に関しては、電子化のためのオプトアウトを行う(基本的に電子化をし、拒否したい方の意向を尊重して対応する)べく検討しております。

ページ数を減らしても大きく金額は変わらないことも把握していますし、理事会議事録の資料等は、Vol. 37 No. 3 号より協会 HP への掲載に変更しページ数を減らす努力をしております。

ただし、特集記事に関しましては協会誌編集委員の想いや企画は非常に優れているものが多く、他の学会誌より充実していると自負しております。従いまして、質を保ちつつ、情報保障や紙媒体・郵送コストの削減等すべてを視野に入れ、段階的な電子化を行うことで、持続可能性に向けて検討を行っております。

◆質問 (敬称略)

田中芳則：【資料 1】6 ページ目 15 行目

2.6 企画推進事業(3)バリアフリー2024 出展者セミナーの開催

・開催日：2024 年 4 月 18 日(木)12:30～13:30

・参加 80 名とありますが、会場での対面での参加者数でしょうか。もしわかれば、会員、非会員などの数もあわせて教えてください。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

対面のみの開催ですので 80 名は対面の参加者数です。会員非会員は集計を取っておりません。今後も総数のご報告になると思います。

◆質問 (敬称略)

田中芳則：【資料 1】6 ページ目 40 行目～

2.7 事業統括事業(2)セミナー開催 ③バリアフリー2024 でプレゼンテーションセミナーを実施

・開催日：2024 年 4 月 20 日(木)12:30～13:30 とありますが、先の 2.6 企画推進事業(3)バリアフリー2024 出展者セミナーの開催では 4 月 18 日(木)でした。どちらが正しいのでしょうか。あるいはプレゼンテーションセミナーとは別々で開催し、曜日だけが誤りでしょうか。回答をお願いします。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

このご指摘につきましては、7 ページ 1 行目の開催日が間違っており、正しくは 4 月 18 日(木)です。つまり、「2.6 企画推進事業(3)バリアフリー2024 出展者セミナー」ならびに「2.7 事業統括事業(2)セミナー開催 ③バリアフリー2024 でプレゼンテーションセミナー」については同様のものを指しています。誤表記がありましたこと、そして混乱を与えてしまったことをお詫び申し上げます。

◆質問 (敬称略)

田中芳則：【資料 1】7 ページ目 13 行目

2.8 国際関連の事業(1)国際関連団体との相互協定に基づく交流 1)GAATO

・年会費：500 スイスフラン → 85,530 円(2024 年 8 月 16 日現在、1 スイスフラン 171.06 円)

日本リハビリテーション工学協会として、この年会費を払うだけの意味があるのでしょうか。協会員へ何かプラスになるとか情報が有益だとか、直接のメリットを見いだせないのですが、回答をお願いします。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

GAATO への参画は 2020 年創立当時からで、総会およびリハビリテーションエンジニアリング (Vol.35 No.4 など) でお知らせいたしました。支援機器に関する国際的な情報共有、調査等において日本における支援機器の学術団体として参加することは当協会にとって意義あることと考えております。協会員への直接的なメリットとしては、当協会も参加した世界的な支援機器効果等に関する調査報告などの情報提供があります。しかし、頻回に情報を提供することがあるわけではなく、ご指摘のとおりメリットを見出せないことも事実です。一方で、協会員の皆様の支援機器に関する豊富な知見をお借りして、世界レベルでの課題に対する調査研究に貢献する場面もあり、日本を代表するリハ工学の団体としての活動が期待されており、GAATO に加盟することは意義があると考えます。

年会費 500 スイスフランに関しまして、日本は加盟国の中でもハイインカムの国に該当しておりこの金額となっています。このところの円安の影響を受けて、高額となってしまいました。

少し残念な話もします。GAATO が対象とした調査から、日本が外れたものがありました。連携が足りないというより、調査の考え方の違いという風にも思えます。

一方で、WHO 神戸センターの関連研究として、日本に留学され、現在も研究活動をしている成果が、国際論文として採択もされています。関連内容を、今回のカンファレンスで発表していただきました。

国際連携に関する事業は、なかなか戦略を長期に考えてゆかないといけない部分があります。

直ぐに、個々の協会員に皆様に還元は難しいところがありますが、継続してゆきます。

◆質問 (敬称略)

田中芳則：【資料 1】7 ページ目 29 行目～

2.9 災害対策関連(1)災害対策委員会活動

「令和 6 年能登半島地震への対応について検討」「(一社)日本災害リハビリテーション支援協会 JRAT、地域 JRAT との連携方法について検討」とあります。それぞれ具体的に何を検討されましたか。

例えば、(一社)日本災害リハビリテーション支援協会 JRAT から派遣要請依頼があり、災害対策委員会でスタッフを派遣して連絡調整などを行ったとか、具体例をお教えてください。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

令和 6 年能登半島地震への対応については、災害対策委員会では、どのような支援ができるか緊急会議を開き検討を進めました。1 月、2 月の時点では、直接現地に入っの支援は難しいため、JRAT の派遣活動への協力を進めました。災害対策委員でもある繁成氏に仲介をいただき、メーカーより寄付いただいた段ボールテーブル (だんて)、段ボール椅子 (だんちえ) を、石川 JRAT 本部へ送る手配をとりました。また、派遣する JRAT 隊や、物資の補給に関する調整を行うロジスティック活動として、JRAT からの依頼に対し、中央対策本部に 5 日間の派遣を行いました。さらに、JRAT 理事会、加盟団体代表者会議、地域 JRAT 代表者会議、週末報告会などに出席し、情報の収集を行うとともに、段ボールテーブル・椅子の手配を含め、調整を行いました。参加回数などについては、協会誌 Vol.39 No.2、Vol.39 No.3 のお知らせをご覧ください。

地域 JRAT との連携方法については、前述の通りです。

◆質問 (敬称略)

田中芳則：【資料 1】8 ページ目 1 行目～

(4)他団体との協働

「当協会会員数や、地域 JRAT との地域区分、当協会による活動内容など、解決しなければならない事項が多い。」とあります。色々問題をかかえているのに、それでも JRAT 関連団体として加入し、年会費を払う意味があるのでしょうか。協働先が違うのではないかと考えています。

「当協会の特長を生かせる災害対策を求める団体との協働については、検討段階であり、大きな進展はなかった。」とあります。この災害対策を求める団体とはどこのことでしょうか。それと具体的にはその団体とは協働できなかったという認識であっていますか。例えば、地域 JRAT などではなく建築・建設業界だとか、医療系ではない団体との協働のほうが適切ではないかと考えています。

この 2 点について回答をお願いします。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

JRAT への参加意義は前述の通りで、現状では優先順位が高い活動項目です。一方で、JRAT 以外の団体との協働は、調査を進めなければならない事案ですが、具体的な活動はできていません。協働に際しては、当協会がどのように協力体制を築けるか、十分な検討が必要だと考えます。

ご意見をいただきました建築・建設業界、医療系でない団体との協働ですが、どの団体と、どのような協力ができるかご提案いただけると、検討の土台にあげやすくなります。ご教授いただけると大変ありがたいです。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料1】8 ページ目 21 行目

3.2 財務(1)法人会計の管理

・インボイス制度への対応について、1 ページ目 37 行目～のインボイスの解釈についての質問と同様ですが、もし財務担当理事の視点で説明して頂ける内容があればお教えてください。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

特に、ご提示できるものはありません。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料1】【別紙2】15 ページ目 8 行目

2023 年度 支部活動報告 中国・四国支部

「支部活動のための体制の構築が困難な状況が続き、特別な活動ができなかった。」とあり、協会としてどのように支えていくか、意見や方針をお聞きしたいので回答をお願いします。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

中国・四国支部は会員数が少ない状況にあるので、会員を増やすためにも、協会ホームページや SNS 等でも地道に活動の広報を行います。また、リハ工学カンファレンス in 東海では、各会員の所属支部を自他ともに認識できる工夫（名札に支部の色分けシール添付）をし、支部ミーティングを中心に、支部活動への参画の声かけを積極的に行う予定です。今後も各種イベント等で、顔の見える関係性を構築し、活動の担い手の発掘・育成に努めます。

本日の懇親会前にも、支部セッションがあります。

皆様、必ず参加してください。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料1】15 ページ目 11 行目～

2023 年度 支部活動報告 九州支部(1)事業概要

「インターネットラジオ配信を実施し、・・・」とあります。協会として支部としてもこれまでにない活動だと思えます。実施の経緯や継続して行うこと、運営や予算的なことについて、他の支部活動の参考のために可能な範囲でお教えてください。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

過去の直接参加形式のイベントにはほとんど集客できませんでした。可能な範囲でコストと時間をかけても効果は変わりませんでした。よって、最小限のコストと時間でできるだけ広く均等に長時間アクセスできるイベントを模索した結果、インターネット配信の収録式のラジオに至りました。

持続性を意識して、支部長が日々情報収集している SNS から話題をピックアップし、勤務終了後の数分で録音、編集、アップロードを行っています。

支部長が現在の職についている限りは継続可能です。意識ある人材が確保できればそれ以降も継続可能です。コストについては収録用のマイクと固定用のスタンドのみです。インターネットラジオ配信用アプリは無料のプランを利用しているので継続的にかかるコストは有りません。

同じようにラジオ配信していただけるなら、コラボレーションでの配信（二人で話す）できると楽しさが広がると思います。

既に他の支部の方も聞いていらっしゃると思いますが、直接アクセス出来る URL 等が共有出来ていませんので、ぜひ知らない製品に関しては、検索を試みてください。

【会場からの質問・意見等（敬称略）】

なし

第2号議案 2023年度決算報告（案）／監査報告

議長より社員総会資料2・3に基づき、その説明がなされた。

議長は、その可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

■承認 49票（出席代議員11名、議決権行使書30票※議長除く、議長への委任状8票）、非承認0、棄権0

◆質問・意見等（敬称略）

【事前に提出していただいた、本件に関わるご意見・ご質問に対する回答】

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料2】19ページ目9～10行目

事業費・管理費内訳書 【事業費】

活動費112,729円、活動補助金143,533円とは協会全体の活動に対する金額でしょうか。例えばこの中にSIG活動費の補助金もあると思いますが、実際に使用した額の合算と思われますが、SIG活動費の補助金だけで実際はいくらでしょうか。教えてください。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

活動費112,729円は支部活動費、活動補助金143,533円はSIG活動費補助金となります。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料2】19ページ目28行目

宿泊費243,295円とはどういうものか、例えばリハ工事務局での会議のため遠方から来られた方への費用なのか、教えてください。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

理事会出席理事の宿泊費です。

◆意見（敬称略）

田中芳則：【資料3】2023年度監査報告 20ページ目25行目～

2. 監査結果「3)インボイス制度導入への対応・・・」の意見のように、例えばリハ工学カンファレンスではインボイスに非対応であるなど、協会員にはわかりにくいと思われます。意見ですが、監査報告のように早期にわかりやすく協会員への連絡やWeb掲載など対応をとってほしいと思います。

■回答：ご意見いただきありがとうございます。

本総会での回答をして、ホームページへ掲載します。

◆質問（敬称略）

石濱裕規：【資料2】19ページ目7行目

協会誌編集・発行費 【事業費】

決算報告書における事業費のうち、協会誌編集・発行経費が以前に比べ著しく増加しています。近年の物価上昇に伴い、印刷・発行経費、紙代も上がっていると聞きます。発刊にかかる諸経費の高騰は社会情勢上、やむを得ない面もあるかと思います。そこで、今後、協会事業の存続・発展のためにも、協会誌の発行形態や査読・論文掲載料につき、見直しが必要かと思います。

年間の発刊数、電子版のみを購読希望する会員枠の新設、また近接領域の他学会では無料掲載誌もある投稿記事の掲載時査読料の設定等につき、今後の方針を可能な範囲でお教え頂ければ幸いです。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

協会全体の運営に関して、電子化による再構築を検討しています。ただ、ご指摘いただいた協会誌に関しては、先行し検討します。

次回理事会で、アンケート内容を決定し、次号協会誌で、皆様にアンケートをし、出来るだけ早い段階で、発行形態を変更します。具体的には、発刊回数・紙での印刷部数の概算が出ているので、会員の総意に基づいて、理事会として決定します。

【会場からの質問・意見等（敬称略）】

なし

第3号議案 2024年度事業計画（案）

議長より社員総会資料4に基づき、その説明がなされた。

議長は、その可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

■承認 49 票（出席代議員 11 名、議決権行使書 30 票※議長除く、議長への委任状 8 票）、非承認 0、棄権 0

◆質問・意見等（敬称略）

【事前に提出していただいた、本件に関わるご意見・ご質問に対する回答】

◆意見（敬称略）

田中芳則：【資料4】25 ページ目 15 行目～

1.7 事業統括(3)情報保障の拡充

「・・・カンファレンス等において情報保障の実施が求められており、・・・」とありますが、情報保障だけではなく、合理的配慮の観点から拡充を検討していただきたいと思います。意見です。担当理事から何かコメントがあればお願いします。

■回答：ご意見いただきありがとうございます。

適正、適切な合理的配慮を検討します。

◆質問（敬称略）

田中芳則：【資料4】【別紙2】32 ページ目 31 行目～

2024 年度 支部活動計画 中国・四国支部

「支部代表退任に伴い、・・・」とあり、協会としてどのように支えていくか、意見や方針をお聞きしたいので回答をお願いします。

■回答：ご質問いただきありがとうございます。

（再掲）中国・四国支部は会員数が少ない状況にあるので、会員を増やすためにも、協会ホームページや SNS 等で地道に活動の広報を行います。また、リハ工学カンファレンス in 東海では、各会員の所属支部を自他ともに認識できる工夫（名札に支部の色分けシール添付）をし、支部ミーティングを中心に、支部活動への参画の声かけを積極的に行う予定です。今後も各種イベント等で、顔の見える関係性を構築し、活動の担い手の発掘・育成に努めます。

【会場からの質問・意見等（敬称略）】

なし

第4号議案 2024年度収支予算計画（案）

議長より社員総会資料5に基づき説明がなされた。

議長は、その可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

■承認 49 票（出席代議員 11 名、議決権行使書 30 票※議長除く、議長への委任状 8 票）、非承認 0、棄権 0

■コメント（河合会長）：HCR に関する予算執行では、わかりにくい記載があるので、来年度の 2025 年度予算ではわかりやすい流れにしたいと考えています。大きく赤字という表現になるが、適正には行わせていただきます。事前にお知らせさせていただきます。

◆質問・意見等（敬称略）

【事前に提出していただいた、本件に関わるご意見・ご質問に対する回答】

なし

【会場からの質問・意見等（敬称略）】

なし

◆意見（敬称略）

田中芳則：総会資料全体

私は総会資料には誤りがあってはならないと思います。毎年あまりにも修正・訂正箇所が多いように思います。2重チェック3重チェックをしているのでしょうか。来年はそのようなことがないよう、お願いいたします。

■回答：ご指摘いただきまして、ありがとうございます。

すべての責任は最終確認をした河合にあります。

今回、多くの誤字があったこと、また、誤字により、皆様に混乱を与えてしまったことをお詫び申し上げます。

おっしゃる通り、総会資料は誤りがあってはならないものです。今後、複数の役員で、これまで以上に徹底して確認していく所存ですので、どうかご理解のほど、よろしくお願いいたします。

議長は、以上をもって一般社団法人日本リハビリテーション工学協会の2024（令和6）年度定時社員総会に関する全ての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（12時35分）

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長並びに議事録署名人は次に記名・押印する。

2024年8月24日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2024（令和6）年度定時社員総会

議 長 河合俊宏 ⑩

議事録署名人 中村俊哉 ⑩

議事録署名人 剣持 悟 ⑩